

第 1693 回例会報告

会長挨拶

『子供は宝』

会長 田中久登

コロナの感染が止まりません、まだ注意が必要です。ただし、ワクチンの接種が始まりました。2～3ヶ月すると収束に向かうかもしれません、それまで注意しましょう。

さて日本では 子供庁を作るそうです。日本では1970年代から出生率が低下し子供の数が減少しはじめました。労働環境の変化や非婚化、晩婚化に伴う出生率の低下など、様々な原因があります。現在日本は1億2600千万人、2050年(30年後)1億と予想されています。明治初期、日本の人口は3000～3300万人であったとのことです。150年で6～7000千万人増加しました。毎年60万人増加した計算になります。昨年は28万人減少しました。今ならまだ間に合います。



現在アジアで人口減少しているのは韓国、日本です。間もなく中国も人口減少に転じます。中国では、1人っこ政策をやめ、人口増を目指し始めましたが、一向に出生率が上向きにならず、今年、3人まで許容するとの政策に変わりましたが子育ての教育費が高額になり、子供1人がやっただとのことです。世界の現在の人口は78億人、2050年100億人と予想されています。2050年(30年後)の世界人口予想は、

1位: インド / 16億 6000 万人(13 億 4000 万人)

2位: 中国 / 13 億 6000 万人(14 億 1000 万人)
 3位: ナイジェリア / 4 億 1064 万人(1 億 9089 万人)
 4位: 米国 / 3 億 8959 万人(3 億 2446 万人)
 5位: インドネシア / 3 億 2155 万人(2 億 6399 万人) となっています。

令和3年6月3日(木)晴

2050年(30年後)の中国は、65歳以上が4.5億人の高齢化社会になると予想されています。日本は30年後人口1億人高齢化率37%3800万人と超高齢化社会となります。

話は飛びますが、下諏訪町の人口変化予想は、現在の19500人から、30年後13000人程度に減少します。ある程度人口減少が進みますと、病院、学習塾、店舗が撤退し、若年層の急激な減少が進みます。諏訪バイパスの建設が計画中ですが、12～15年後開通するとしますと、そのころ下諏訪町の人口は16000人ほどになっており、現在の小中学生の若者が高齢者を支える社会となります。リニア新幹線のも開通しているところで、日本の生産産性を飛躍的に向上させる必要があります、生産性向上のためのインフラ投資は欠かせません。

戦後、名古屋の100m道路が、終戦間もなく若手の建設省技術者たちにより計画され、将来の日本には交通システムが必要と建設されました。当然、当時建設の是非を問う住民投票などは行っておりません。当時の一般の住民に建設の是非を判断する情報はありません。建設省の若い技術者たちの、ヨーロッパのアウトバーンや、フランスの大通りの必要性を読み取り建設されました。少ない人口で高齢化社会を支えるさらなる準備が必要となります。コロナ後の経済政策は一層重要となります。子供庁はもとより、子育てが豊かさの象徴となる社会体制の構築が急がれます。子供は宝です。文化の継承のためにも地域経済の持続は必要です。皆さんとともに頑張りましょう

2020-2021 年度 諏訪湖ロータリー活動方針
「手を差し伸べ、未来へつなぐ」

◇幹事報告◇

【報告事項】

1) 2021年6月のロータリーレートは、1ドル=109円と本部より連絡がありました。

【受領文書】

- 1) ロータリー親睦活動月のリソースが来ました。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。
- 2) 財団ニュースが届きました。ご希望の方は事務局までお問合せください。
- 3) ロータリークラブ100周年冊子の連絡が来ました、1セット6600円ですご希望の方は事務局までご連絡ください。

Happy birthday 

今月の誕生日は
長崎政直さん、田中久登さん、吉澤邦雄さん、森山広さん、小笠原仁さんの5名でした。
SAAの不手際で誕生日祝をできずに申し訳ございませんでした。
紙上にてお祝い申し上げます



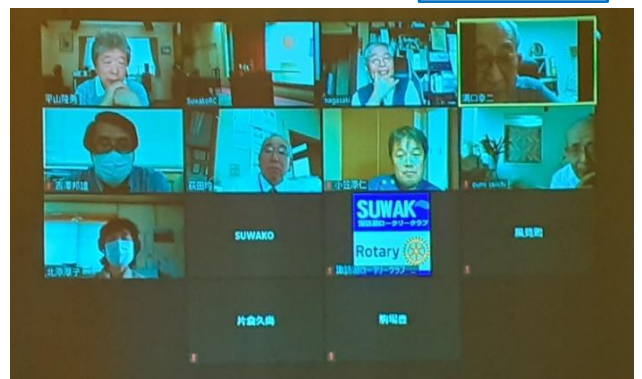
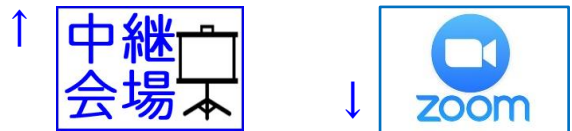
諏訪湖ロータリー
便り

今日は実習生3人を連れて原村の田んぼで田植えです。八ヶ岳をバックに作業中（駒場豊会員）



皆さんも何げない日常やちょっと変わった日のことをメールや Line で送ってください
なおLine上では、フィリピンに入国した西澤直前会長の辛い隔離生活の様子と坂村会員との楽しいやりとりが続き多めに笑いました。

沢山の方にご参加いただきました
本日の例会は ZOOM ばかりでなく中継会場「マリオ」にも沢山の方にご参加いただきました



林洋三会員

市民新聞「諏訪湖に学ぶ」で特集！

5月28日付市民新聞で林洋三会員が 豊富な「湖の幸」再び光を・・・ と題して諏訪湖の川魚料理紹介しておりました。料理はとてもおいしそうで、紹介する林洋三会員の笑顔も素敵でした

2021年(令和3年) 5月28日(金) 市民新聞クラブ
かつて単位面積の漁獲「日本一」
連載
諏訪湖に学ぶ
豊富な「湖の幸」再び光を

第 1693 回例会 ミンダナオ子ども図書館パートⅡ「奉仕の心」

国際奉仕委員会担当例会 会員卓話 長崎政直

プロローグ：センチメンタル・ジャーニー



ごらんいただいている写真は、初めてミンダナオ子ども図書館を訪問した時の一枚です。アポ山の北西にあるアラカン地区の中腹の20戸ばかりの集落。バナナ畑の脇の空き地で子供達がバスケットボールで遊んでいるのをボーと見ているときの私の心模様です。

ここはもう・・・まったくちがう世界・・・風も・・・空気も・・・空を見上げれば、時間が止まっているようだ・・・どうしてこんなところに、わたしはいるのだろう・・・と、思ってしまった。そして、なぜか、宮沢賢治の「雨にもまけ

ず」の詩が浮かびました。今回お話しするにあたって、再度、振り返って、見てみました。雨ニモマケズは、「奉仕の心」に満ちあふれた詩だなとつくづく思いました。



これは、子ども図書館にいた一人の少女のスライドです。子ども図書館で私の好奇心を駆り立てたのが、この「MokMok」という少女です。最初に会ったのは彼女が小学校二年生の時で、私たちの最初の訪問の時でした。私たちに与えられた部屋に4人ほどの仲間とともに遊びに来ました。溝口先生は手慣れたもので、歌を一緒に歌ったり、すぐ仲良しになりました。彼女と私は波長が合ったのでしょうか、お互いに惹かれるものがありました。子ども図書館を訪問すると、必ず、歓迎のタベと送別会を開いてくれます。そしてその最後に、子供達は、全員、次々とハグしてくれます。彼女のハグは、他の子供達にくらべ、力のこもった、体温が感じられるハグで、人間としてのふれあいを感じました。

彼女は利発で、積極的で、スタッフから将来を期待されている少女でした。毎回訪問時には、彼女を探し、声をかけ、6年間、彼女の成長ぶりを観察してきました。最後の訪問時、彼女を探しましたが見当たらないのです。

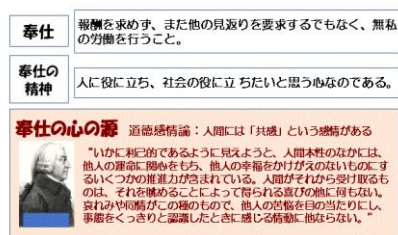
「MokMok は・・・」と訊ねました。「彼女はもうここにはいない・・・！！彼女は、ここの規則を破って、男友達をつくり、学校もサボって、退寮処分になりました。彼女のお姉さんのところに行っただけです。」とのことでした。驚きました。彼女の身の上が心配になり、ソーシャルワーカーのスタッフに頼んで探しに行きました。お姉さんの所、お姉さんから聞いた彼氏の叔母さんの所、居ません。さらに働いているであろう山の中の彼氏の親戚と探し、やっと彼女に会うことができました。彼女は、パーム油を採取する季節労働をしている青年と結婚したということです。

「Are you happy 幸せかい？」と聞きました。「Yes, Of course I am happy！！もちろん幸せよ」と返ってきました。私は失恋です。

ミンダナオの原住民、マノボ族の人生観は、「若い結婚、多産の子供」なのかもしれません。彼女の二人の姉もそうですし、早く大人になりたかったのでしょう。その後、彼女が身ごもったという話も伝わってきました。私たち近代社会の人生観・結婚観とは違った価値観の中で生きているのだろう、ピサヤの文化に戻っていったと思うのです。

ちょっとセンチメンタルな話でした。

奉仕の心



さて、本日の主題「奉仕の心」です。

奉仕という言葉の意味は、〈報酬を求めず、また他の見返りを要求するでもなく、無私の労働を行うこと〉、

奉仕の精神は、〈人に役に立ち、社会の役に立ちたいと思う心〉であると言われてます。〉

この奉仕の精神、心はどこから生まれてくるのかというと、アダム・スミスという哲学者は次のように「道徳感情論」で言っています。

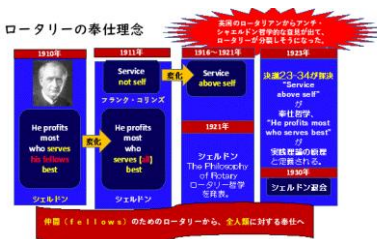
“いかに利己的であるように見えようと、人間本性のなかには、他人の運命に関心をもち、他人の幸福をかけたがえのないものにするいくつかの推進力が含まれている。奉仕する人間が受け取るものは、それを眺めることによって得られる喜びの他に何も無い。哀れみや同情がこの種のもので、他人の苦悩を目の当たりにし、事態をくっきりと認識したときに感じる情動に他ならない。”



どんな人間（善意の人、悪意の人）の中にも共感という感情があり、苦しんでいる人、困っている人を発見すると、同じように悲しみ、苦しみ、その人のために苦悩し、その人を助けようという本能が働き、支援行動するという稀な存在だということです。奉仕の心の源は、その善なる人間性だということです。そして、奉仕の結果として得られるのは、他者の幸せに貢献できたという喜びしかない。それでは、ロータリーでは、奉仕をどのように考えているのでしょうか。



今年度の「ロータリーの友」に、創立期のロータリーの漫画があります。漫画では「友達づくり」からその友達の「互恵関係活動」、「そんな利己的なクラブには入らない」と言った弁護士ドナルドカーターの言葉に触発されて「社会のための奉仕活動」へと発展していきます。無論、その奉仕は人道的支援というところに昇華はしていなかったと想いますが。



ロータリーの奉仕理念には、二つのフレーズがあります。

① He profits most who serves best. であり、

「常に他人の立場を考えて、他人のためになるように尽くすサービス（奉仕）を実践しているものが成功を収める」という実践理論です。

初期には He profits most who serves his fellows（仲間のためによく奉仕する者・・・）だったそうです。

同様に、② Service above self は、最初、Service not Self（無私の奉仕）でした。

not が above に替わったのは「人は皆自己を尊ばねばならないし、また自己を守らねばならない。それならば自己を否定する無私 not よりも自己を第二に置く above 超我の方がよいということで、修正されて、「Service above Self（超我の奉仕）」となったということです。

Section titled 'Ideal of Service 奉仕の理想' (Ideal of Service, Philosophy of Service) with text: '他人のことを思い遣り、他人のために尽くすこと。人のニーズを思い遣り、他人のために尽くすこと。人々の、社会のニーズを良く汲み取って、そのニーズを理想的なカタチで満たすという意味です。そして、ロータリアンは、これを生活の場すべてに適用して行くように努力しようとするのがロータリーの目的、即ち綱領なのです。'

こうした二つの言葉を核にして、< Ideal of Service 奉仕の理想 > とよぶようになりました。「他人のことを思い遣り、他人のために尽くすこと」。人々の、社会のニーズを良く汲み取って、そのニーズを理想的なカタチで満たすという意味です。そして、ロータリアンは、これを生活の場すべてに適用して行くように努力しようとするのがロータリーの目的、即ち綱領なのです。

Section titled '決議 23-34 奉仕するものは行動しなければならぬ' (Resolution 23-34 Service is action, not words). It explains that Rotary is not just a philosophy but an action, and that members should practice service philosophy in their actions.

1923年、世界大会で決議 23-34 が決議されました。その神髄は【ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない】という宣言です。

同時代に、ロータリーから数十年遅れて、社会全般の向上のために活動する、We serve を掲げてライオンズクラブがシカゴで創立されました。社会奉仕活動としては、ライオンズ・クラブに負けていたなあとは思っています。

Section titled '社会奉仕だけRCの目的ではない! 単なる奉仕団体ではなく職業奉仕も大事なのだ!!' (Social service is not the only purpose of RC! Service is not just a service organization, but professional service is also important!!). It lists the Four-way Test: 1. Is it the truth? 2. Is it fair to all concerned? 3. Will it build goodwill and better friendship? 4. Will it be beneficial to all concerned?

ロータリークラブの社会奉仕の目的についてお話ししてきました。ロータリークラブには、この社会奉仕の他に、もう一つの大事な目的があります。「ロータリーは単なる奉仕団体ではない」とロータリアンの先輩指導者から言われます。それは、科学的かつ道徳的な経営方針によって、自分の事業や同業者の事業の発展を図ると共に、業界全体のモラルを高めていこうという職業奉仕の理念があるということです。それは、四つのテスト：「真実かどうか」「みんなに公平か」「行為と友情を深めるか」「みんなのためになるかどうか」に示されています。

ます。例会に集い、学び、確認し、励まし合って、職業に勤しむこともロータリー活動の大事な目的であり、例会はそういう場なのです。と、源流の会の田中 毅さんは言っています。

こうしてロータリーの奉仕の考え方を見ると、above self（奉仕：サービスが第一、自己は第二）で表すように、宗教的な滅私の奉仕概念とは違い、人間臭いと言いますか、自己欲求：利己（儲ける）を否定していないことに気がつきます。

諏訪湖ロータリークラブの歩み



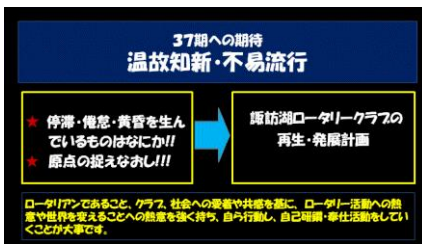
諏訪湖ロータリークラブの35年余を5年刻みで振り返ると、1985年に創立し、模索期→研鑽期→元服期→動乱期→満開期→円熟期と進んできました。ところが30期以降、マンネリ化が進み、停滞感、倦怠感が募る危機的状況のように私には見えます。

新潟ロータリクラブの小山樞夫さんが指摘しています。昨今のロータリークラブを見ていると、親睦には熱心だが、社会奉仕、職業奉仕などの活動については疎かになっている。



「フェロウシップ」と「フレンドシップ」は違うのだ。目的、理念を共有し活動するフェロウシップこそがロータリーなのだ。奉仕の理念をわきに置き、〈楽しいロータリー、楽しくなければロータリーではない〉などと言っているからロータリーはおかしくなっている」と言っています。「まあ、そんなに固いことを言うなよ!!!」とおっしゃる方もいますが、ロータリーの諸活動は、もっとロータリーらしくなければいけないと思っています。

40周年に向けて!!



今、やらなければいけないことは・停滞・倦怠・黄昏感を生んでいるものはなにか!!をまず知る事です。私は「ロータリアンであること、クラブ、社会への愛着や共感を基に、ロータリー活動への熱意や、世界を変えることへの熱意を強く持ち、自己研鑽・奉仕活動をしていく」という「奉仕の心」を作ることだと思います。「新しい会員がでなく、古い会員も」

コロナ禍の中でも、①原点の捉えなおし②諸事業の評価・見直しは、可能です。そこから諏訪湖ロータリークラブの再生・発展計画を構築することだと思います。

います。

37期のテーマは、温故知新だと発表がありました。似たような言葉ですが、不易流行も加えてほしいなと思っています。

温故知新とは、過去にあったことをよく調べ、学び、そうして得られた知見を活かして新たな知識を得ることです。

不易流行とは、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくことです。

エピソード

雨ニモマケズ 宮沢賢治
雨ニモマケズ
嵐ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ
大ナカカラダヲモチ
朝ハサク
決シテ眠ラズ
イモシツクニワラツテキル
一日ニ五食四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ
ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ
小サナ葎ヅキノ小庭ニホテ

「奉仕の心」については「今まで幾度も見たり、読んだり、聞いた話だ!! ロータリーでは常識だよ」という話でした。絶えず心に刻む「不易の心」なのです。

最後にミンダナオ子ども図書館活動は、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の奉仕の心を地でいっているなと思います。是非一度訪問して、体験してみてください。提案している水事業は、そのお手伝いをしたいという思いからです。